



七本松

木之本ライオンズクラブ 創立四十周年に想う



L 藤田市治

木之本LCが誕生したのは今から四十年前。それは、日本の高度成長のまっただ中。その頃は何を作っても売れた時代。何を扱っても儲かった時代であった。それから四十年。二十世紀から二十一世紀へと移り変わり、今や『環境の世紀』といわれる新しい時代に入った。従って、高度成長期のような工場の煙突から煙がモクモクと出てくるような時代は遠く過去のものとなってしまった。環境に優しい工業。環境と共存できる産業が、これからの日本の経済を支えていくてくれることであろう。

さて、私は、今から十年前と、六年前、更に二年前の三回にわたり、ドイツの南部、バーデン・ヴェルテンベルク州に広がる南北一七〇km、東西六〇kmに及ぶ『黒い森(シュバルツヴァルト)』を視察いたしました。なぜなら、その南フライブルク市の五五〇年前創立の古い伝統ある大学が、大気汚染の調査塔を森の中に何基も建て、酸性雨の調査・研究をしていると聞いていたからである。即ち、当時、わが国では、欧州からの酸性雨によって、『黒い森』の約四分の一が枯死してしまっていると喧伝されていた。しかし現実にそこに行くと調査してみると、欧州では台風がない代わりに突風が吹き荒れ、『黒い森』全体に植えられている根が浅くて横に広がっているドイツ樫が主となっている森林であるために、成木は簡単に倒木となってしまう。しかも、土壌改良ができておらず、品種の改良もなされていない。それと欧州の工業地帯から流れてくる酸性雨が相まって、『黒い森』を枯死に導いていたのである。

ちなみに大学町であるフライブルク市は、『黒い森の首都』として、城壁内の旧市内には、一切、自動車は乗り入れさせず、全く環境に優しい、美しい街並みを見せている。通りには小石を敷き詰め、店やレストランの前には、それを象徴するモザイクの模様を描かれている。また道の両脇には、『黒い森』から流れてくる『ベツヒレ』と呼ばれる冷たい綺麗な水が、コンクリート作りの小さい川に流れ込んで、街中を流れている。子供たちは、その小川の中をジャブジャブと歩んで遊んでいる。チンチン電車の車道と歩道との間に小川があり、各家の入り口には人がやと通れるだけの幅の鉄板しか置かれていない。もともとは、防火用水と路上清掃・浄化のために設けられた水路であったが、今では町の名物となっている。

このように静かで美しい町の根源である『黒い森』も、かつて木造船などの建造で上得意であった日本や北欧が、輸入制限をかけたことから、林業経営は苦しくなってきた。従って、他に職を持つ者ながらの林業

といった形になってしまっている。その姿は、まさに日本の林家と同様の運命と思われる。従って、林家に対する所得保障制度が施行されているのである。私は、昨年まで、滋賀県森林審議会の会長をいたしておりましたが、知事から、『近未来の県内の林業経営の方向づけ』についての諮問を受けました。私は、かつて、神奈川県が実施しているような『水源税』を利用者に賦課することを提唱いたしました。南郡の市町村長から猛烈な反対を受け、遂にこれを引込めざるをえませんでした。そこで、今回は、知事の諮問に答え『環境税』の創設を提案し、これにより森林の植林・育林・保全の『特定財源』として、国土の保全や、水資源の涵養、土砂災害の防止などに資するよう答申いたしましたところである。



このような変遷を見ると、当クラブの歴史と共に、時代の要請も大きく変わってきていることを痛切に感じてやまない次第であります。

伊香郡スポーツ少年団 交流大会

8/10



伊香郡スポーツ少年団交流大会が真夏に開催されました。少年の健全な精神と健康な体をつくり、友情を深めることができたでしょう。



今年度の事業と例会

家族納涼例会

8/19



八月の第二例会は、年に一度の家族例会とし、大見いこの広場で行なわれました。木之本ライオンズクラブの家族がたくさん出席され、交友を深め、楽しいひとときでした。

